野田はまなす会会報
No.56 平成30年2月

はまなす通信

発行：野田はまなす会 / 編集：野田はまなす会事務局（野田村役場総務課）☎0194・78・2111

日帰りレクリエーション

「500万本の曼珠沙華（まんじゅしゃげ）を鑑賞する会」を実施

埼玉県幹事
諫山とも子

9月24日、野田はまなす会の恒例事業「日帰りレクリエーション」が埼玉県日高市の曼珠沙華公園で行われました。

当日は晴天に恵まれ、幸運でした。参加者は各自、弁当持参で西武池袋線「高麗駅（こまえき）」に10時に集合しました。同公園には、数日前に天皇・皇后両陛下が訪問されたり「巾着田曼珠沙華まつり」が開催中であったりと混雑が予想されましたが、埼玉県幹事の大澤清子さんご夫妻が早朝から食事や交流場所のため、場所取りをしてくださっていました。

高麗駅から歩いて巾着田に向かう途中には曼珠沙華が咲き並び、いが栗が口を開けていました。小川にはハグロトンボが飛んだりメダカが泳いでいて、ふるさと野田のことを思いながら、楽しく歩いているうちに、目的地に到着しました。

この巾着田の名前の由来は、日高市内を流れる高麗川の清流が蛇行して作られた地形が巾着に似ていて、一面が田んぼになっていたことから「巾着田」と呼ばれるようになったとのことです。

さて、全員揃ったところで、桜庭会長と埼玉県幹事代表の大澤清子さんの挨拶がありました。たくさんの観光客がいるので、12時30分まで自由見学の時間とし、思い思いに真っ赤に咲いた曼珠沙華を観賞して回りました。

公園内500万本が咲き並ぶと言われる曼珠沙華（彼岸花）は、森の中に赤い絨毯を敷き詰めたように、美しく咲き乱れていました。曼珠沙華と森林浴を堪能した後は昼食時間です。持参した弁当を食べたり、ビールや焼酎を飲んだりして懇親を深めました。昔話に花が咲いているうちに、あっという間に時間が過ぎてしまいました。最後に全員で集合写真を撮ってお開きとなりました。

会員の皆様、この会も来年度は設立30周年を迎えます。6月17日の記念総会、祝賀会や10月に開催される日帰りレク（都内の見学・散策）に参加して楽しい一時をお過ごしください。

皆さまのご参加をお待ちしています。

500万本のうちの1本

新春のごあいさつ

野田はまなす会
会長　桜庭昌吾

会員の皆さまには、ご健勝にて新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。昨年中は会の活動に対し、多大なご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございました。６月の「総会・ふるさと交流会」、９月の「日帰りレクリエーション」には、たくさんの会員の皆さまにご出席いただき、会員相互の懇親を深めることができました。役員一同、心から感謝申し上げます。

さて、野田村の嬉しいビッグニュースがありました。山口県の「下関ふく」や岩手県の「前沢牛」と聞けば、高級食品というイメージがすぐ浮かんできます。なんと、村の荒海ホタテがそれと同等のブランドとして高く評価されました。

農林水産省は、11月10日、地域の農林水産物や食品をブランドとして国が保護する地理的表示保護制度に、村特産のホタテガイ「岩手野田村荒海ホタテ」が登録されました。岩手県では奥州市の「前沢牛」に続く２例目です。水産物では岩手県初の国の「お墨付き」を得ました。こんな誇らしいことはありません。私達はまなす会でも、村の観光・宣伝とともに胸を張って荒海ホタテの販路拡大の宣伝をしていきたいと思います。

今年は、はまなす会創立30周年の年になりました。記念事業実行委員会では、記念誌の発刊を始め祝賀会等の準備を着々と進めています。祝賀会には友人や、知人を誘って多くの会員にご出席くださるようお願いいたします。

終わりに、今年も会員皆さまがご健勝でご多幸な年でありますよう、ご祈念申し上げ、新春の挨拶といたします。

貝殻に付着した生物などを取り除き、表面を滑らかで綺麗に整えます

新春のごあいさつ

野田村教育委員会
教育長　小原正弘

野田はまなす会の皆さま、野田村教育委員会教育長をしております小原と申します。平成29年３月末をもって教員生活を定年退職となり、ほっとする間もなく４月よりお世話になっております。

私は岩手県南の大東町の生まれで野田村との縁は、震災翌年の平成24年から３年間野田小学校の校長として勤務したことがつながりになっております。教育長という重責を担うことに不安はありました。昭和57年に採用となり35年間、教員生活をなんとか無事に終えることが出来たこと、縁あって教育の世界にもう少し携われることは大変幸運なこと、野田小３年間のなかで多くの人にお世話になり、充実した時を送ることが出来たのは野田村の皆さまのお陰、そういった考えに至り、その恩に報いるためにも微力ではありますが村のために尽力していきたいと現在にいたっております。

平成24年３月、初めて野田村に足を踏み入れた時には真っ黒いガレキが山積みになり、震災の爪痕が見られました。それから６年、同じ場所には広い芝生の公園が出来上がり、子供たちが笑顔で遊ぶ姿を見ることが出来ます。１００軒以上もあった野田中グラウンドの仮設住宅は全て撤去され、昨年立派なグラウンドが再建され、お披露目も兼ねて村民大運動会も開催されました。目に見える復興の進みを、私も実感しております。

今、村では東京オリンピック・パラリンピックに向け「復興ありがとうホストタウン」として震災時に支援をしてくれた台湾との交流を進めています。１月には和太鼓の支援を受けた野田中を代表して生徒４人が今後の交流の先立ちとして台湾を訪問し、感謝の気持ちを伝えました。これも縁です。色々な形で繋がった縁と恩を大切にして、村の活力に乗り健康に留意しながら無理せず役割を進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

参加者募集のお知らせ

平成30年岩手県人連合会総会
第44回 岩手県人の集い

◎日時
６月３日（日）
受付開始　午後10時～
◎会場
ホテルラングウッド
東京都荒川区東日暮里 5-50-5
（日暮里駅南口そば）
◎会費
8,000 円
◎備考
参加希望者は、会長 桜庭昌吾（携帯 090-9002-4356）に連絡のこと

友好団体との交流
東京大野つばさ会

11月12日、東天紅上野店で「東京大野つばさ会（福島義雄会長）」と「在京たねいち会」合同の「ふるさと交流まつり」が開催され、当会から桜庭昌吾会長が出席しました。

東京大野つばさ会は野田はまなす会との交流も深く、色々なことを教えていただいている会です。この会は旧大野村出身者で創立され、大変郷土愛の強いふるさと会です。

毎年、大野・種市から町長や議員らのほか、一般の人など多数の人がバスで参加しています。会場は毎年総勢２５０人くらいの参加者で大盛況です。

会場内では約10店舗ほどが種市・大野の特産品を展示販売しており、参加者全員に１０００円の買い物券を配布していることが特色です。

また、アトラクションでは、昭和30年代の古き良き時代の「演芸会」が誠に上手に演じられています。歌あり踊りあり寸劇ありで大盛り上がりです。野田でもこの頃、各部落の公民館で青年団や婦人会などがやっていたのを思い出します。

ふるさと会にふさわしい創意工夫がいつも感じられる楽しい会です。

はまなす会設立30周年記念事業協賛金

会員の皆様から多大な協賛金をお寄せいただきました。心から感謝申し上げます。

◎協賛金額…54万3千円

◎協賛金協力者ご芳名

【埼玉県】
安藤君夫・諫山とも子・大沢清子・河戸サヨ子・坂本悟・桜庭昌吾・種綿勇・中村勇・米田重郎・米田忠男・吉田昭子

【東京都】
阿部巌・戎谷牧子・北田誠治・小谷地守・坂本春男・佐藤匡宏・志村良子・十文字敏幸・新保弓子・明内キサ子・柳幸光男

【神奈川県】
臼居レイ子・大沢直人・欠端博雄・笠間かづ子・桜庭昌・佐藤武・鈴木カツ子・高須勝・野崎具視

【千葉県】
大沢勝司・小野正美・久慈士郎・児玉幸子・佐藤慶子・下平ミサオ・鈴木文子・山根正信

【岩手県】
小田克孝・新山孝司・野田村歴史の会

【栃木県】大平悦子

【茨城県】志賀えみこ

（敬称略・アイウエオ順）

第３回役員会・第４回記念事業実行委員会
記念事業の詳細詰める

１月７日、役員13人の参加のもと、東海大学交友会館（会議室）で、第３回役員会・第４回記念事業実行委員会が開催され、会設立30周年記念事業関係について下記のとおり討議されました。

(1)総会・祝賀式について
①来賓招待者
野田村の関係者・友好団体・県、県人会・その他
②進行次第
(2)記念祝賀会について
(3)記念企画・アトラクションについて
①30周年記念として、村へ金一封を寄贈
②野田村の物産展示販売
③村からの出し物として伝統芸能を依頼
④楽団ナツメロ演奏「佐野 啓とハイクラソーナ」※３人ほどに絞る
⑤映像、野田村の復興の様子
⑥設立記念 野田特産品の福引き
・はまなす会特別賞を出す
(4)記念誌について
編集の特色について
・東日本大震災特集
・会の歩みを写真を中心に編集
・平成21年からのはまなす通信を原寸大（Ａ４版）で入れる
(5)記念品について
(6)記念事業について
①野田村の復興状況の視察・応援ツアー
・時期　８月12日（日）
・視察・見学・交流親睦会を実施
・野田集合・野田解散（交通手段、宿泊場所は各自で手配）
※最少催行人数…20 人
(7)協賛金・広告について
54 万 3,000 円

ふるさと野田村の復興視察・交流親睦会
参加者募集 !!

◎日時（現地集合・現地解散）
８月12日（日）　午後２時集合（野田村役場前）
◎内容（村のバスによる移動）
【視察・見学】午後２時～５時
被災地域と復興状況視察（十府ヶ浦海岸、バイオマス発電所など）
【交流親睦会】午後５時30分～７時30分（えぼし荘）
※宿泊場所・現地までの移動手段は各自でご手配ください。
【国民宿舎えぼし荘　0194-78-2225】
◎参加申し込み
【期限】　３月30日（金）
【募集人数】最少催行人員 20人（最大40人）※先着順で受け付け
【申し込み・問い合わせ】
実行委員長　桜庭昌吾　090-9002-4356
野田はまなす会事務局　野田村役場総務課　0194-78-2111

会設立30周年記念総会・記念祝賀会を開催 !!

野田はまなす会が設立され、今年で30年を迎えます。会員の皆さまのご支援・ご協力の賜物と感謝いたしております。
つきましては、ご来賓を迎え、会員こぞってお祝いをしたいと存じますので、万障お繰り合わせの上、是非ご参加ください。

◎日　時　６月 17 日（日）
記念総会：午後２時～　/　記念祝賀会：午後３時～
◎会　場　東海大学校友会館（霞が関ビル 35 階）
◎会　費　交流会費：6,000 円・年会費：3,000 円
※今年、中・高・大・専門学校の卒業生は無料招待
◎その他　アトラクションとして、野田村の伝統芸能・懐かしのメロディー演奏のほか、特産品展示販売などを予定
■問い合わせ
会長　桜庭　昌吾　090-9002-4356
野田はまなす会事務局　野田村役場総務課　0194-78-2111

会員の声

「野田はまなす会」への思い

戎谷牧子
明内出身・
野田中昭和40年卒

ハマナス

ハマナスが群生していた十府ヶ浦（震災前撮影）

私は明内・秋田地区で生まれました。野田小学校、野田中学校で学び、久慈農林高等学校を卒業するまで、大好きな野田村で過ごしました。病気で苦しんでいる人に寄り添い、少しでもお役に立ちたいと看護婦を目指して上京しました。東京の総合病院に就職するまで18年の間、野田の空気をたっぷりと吸い、目と心には野田のすばらしい風景が焼き付いています。

どんな時でも想い浮かぶのは生まれ育った故郷野田村のことです。十府ヶ浦の真っ青な海を背景に浜辺一面に群生し、真っ赤に咲くハマナスの花々は今でも鮮明に瞼によみがえります。私にとって忘れられないふるさと野田の最も素晴らしい光景の一つです。

大きな望みを抱いて就職した仕事にも慣れてきて、さらに上を目指して高等看護学校で学び、看護師となり、一生懸命働きました。

しかし、東京に出てきて野田に帰省するのも年に1～2回程度で、寂しい思いもしていました。そんな頃、同級生の友達からの誘いで「野田はまなす会」に初めて参加しました。最初はなかなか参加している皆さんの輪の中に入っていけず、まごまごしていました。

その後も誘われて参加しているうちに、同郷の人たちとの会話にも入っていけるようになったり、同級生との学生時代に戻ったかのような楽しい語らいがあったりで、東京に居ながら、田舎に居るような気持ちになったのを覚えています。それからは会があるたびにできるだけ参加し、楽しんでいます。

若かったあの頃から年月を経て「野田はまなす会」も30周年を迎えようとしています。その間、嬉しかったこと、楽しかったことたくさんありましたが悲しい出来事もありました。

決して忘れることのできない東日本大震災です。テレビに報じられる怒濤の荒波に木の葉のように流され、崩壊する家屋の画像を見て何度涙したことか。このような悲しい出来事は2度とあってほしくないと心から願っています。

故郷を思う気持ちはどこにいても同じです。私は「野田はまなす会」に出席するごとに故郷への想いが強くなっていく気がします。それは、会に出ると、故郷の同じなまりで気兼ねなく語り合うなかに生まれ育ったふるさとを感じ、故郷に帰ったような安らかな気持ちになるからです。

このようなすばらしい「野田はまなす会」を30年という長い間支えて来てくださった方々に深く感謝したいと思います。この会がさらに40周年、50周年と続いていくよう願っています。

あとがき

◆去る10月22日、野田村の高齢者や子どもたち100人が、3・11の大津波が襲来した十府ヶ浦の前浜地区海岸に防潮林再生のため30㌢のクロマツ500本を植えている様子が岩手日報に報じられていました。村民の命と生活を守る防潮林。昭和世代の私たちが気がついた頃には、防潮林の松林は当たり前にありました。このクロマツが育ち、後世の人達に3・11を思い起こさせてくれる安全のシンボルとなって欲しいと願います。

◆全日本アンサンブルコンテスト岩手県大会で演奏した野田小学校フルート三重奏が東北大会に進みます。ふるさとの子供たち、頑張っています。誇らしく、明るいニュースに元気をもらいました。

◆天皇退位により、新元号が2019年5月1日から変わります。慣れ親しんだ昭和は64年1月7日まで、平成は31年4月30日までです。古きよき時代の「昭和は遠くなりにけり」です。

（S・S）